



## 大鋸の比較 洋鋼製(上)と玉鋼製



洋銅で作られた黒光りのする立派な大鋸を来館された方から贈られまし

# 鉄のふしぎ? 博物館

■ 21

## 玉鋼で出来た大鋸(おが)



## 玉鋼製の刻印



## 洋鋼製の刻印

玉鋼製の、それを入手すべく、インターネットで調べてみると、幸いなことに新潟県の三条市で金物問屋を営む下さんがあお持ちなのが判りました。以前、有名な鍛冶屋、岩崎重義氏のナイフ道場の世話ををしていただき、日本刀の見方を教えていたしました。

玉鋼製の、それを入手をしました。電話の向こうの彼は、「久しぶりです」とのあいさつその後私は本題の玉鋼でできました大鋸を譲つてほしいとお願いしたところ、形状ちよく、刻印の見える大鋸を送っていただけました。わくわくした気持ちで

歯の5—6cm上に鍛接をした痕跡があります。歯の部分は玉鋼で背は鉄でできています。送っています。ただいた下さんは硬度計で測定し確認されていました。江洲鋸を作る鍛冶屋さんは使用する鋼や鐵を、長浜や大阪から仕入れていました。玉鋼は石

た。その時から、前挽大鋸のことを調べたいと思うようになり、洋鋼製と玉鋼で作られていた大鋸にはどんな違いがあるのでしょうか。

ただきました。刀剣と大工道具に詳しい彼とは長く親しいお付き合いですが、最近は新潟県へ出向く機会がなく、ごぶさたをしています。早速電話

待ちました。数日後、到着した大鋸は赤サビ色ですが保存状態は非常に良いものです。形状は洋鋼で作られたものと同じです。丹念に表面を見るとい

衣川製鎖工業・衣川良介社長

画像はカラーモードで  
交換しています。

日刊産業新聞 14・5・12

この大鋸には五種類の  
刻印があり二種類は読み  
ました、「近江甲賀」と  
「天彦」です。あれ？あれ？  
この刻印、本で見えた  
ことがある。本棚から岡  
書『むらの鍛冶屋』を出  
し、ページをめくりま  
た。後半の部分に「近江  
鍛冶屋の広がりと「近  
代」——近江甲賀にて

この大鋸には五種類の  
刻印があり、一種類は読み  
ました、「近江甲賀」と  
「天彦」です。あれ?あれ?  
れ?この刻印、本で見た  
事はない。一見、何のもの  
かわからぬ。

年一郎治屋参

「こ」で  
製のさ  
治42年(

【参考図書】むらの鍛冶屋  
香月節子・香月洋  
平凡社 1986

製のさやに筆文字で『明治42年〇〇円新調』岩舟村 今井安治郎 持と書かれていました。